

運営推進会議報告書

第 2 回

地域密着型通所介護

運動器機能向上型通所サービスとれさぼ

合同会社とれさぼ



2024年 10月 29日

地域密着型通所介護 運動器機能向上型通所サービスとれさぼ

議 事 録

日時 : 令和 6 年10月29日(木)13:30~14:30

場所 : 運動器機能向上型通所サービスとれさぼ

司会・進行 : 事業所管理者

出席者 : 7名

※会議関係者

事業所(管理者) 1名	事業所職員2名
南足柄市高齢介護課 担当者 1名	南足柄・北足柄・福沢地区地域地域包括支援センター 1名
利用者ご家族2名	

【議事・議題】

1. 事業所の概要についてお話ししました。以下、会議資料抜粋。

(1) 運営法人

名称	合同会社とれさぼ
代表者	代表社員 金盛 智也
業務執行権	業務執行社員 金盛 智也
所在地と連絡先	神奈川県南足柄市飯沢336番地4号 電話:090-5996-6627

(2) 事業所の情報

① 名称等

名称	運動器機能向上型通所サービスとれさぼ
事業所番号	南足柄市指定:1494300187
所在地と連絡先	南足柄市狩野494番地川下ビル1階 電話:0465-46-6591 FAX:0465-46-6592
管理者	金盛 智也
通常の実施地域	南足柄市
利用定員	10名

② 営業日、営業時間等

営業日	月曜日～金曜日
休業日	日曜日、祝日、GW、盆、年末年始
営業時間	8時30分～17時00分
サービス提供曜日	午前 (月)～(金) 午後 (水)(金) 令和6年11月～(火)がサービス提供スタート

サービス提供時間	午前	要介護者	9:00～12:00
		要支援者	9:30～11:30
	午後	要支援者	14:00～16:00

③ 従業者について

職	職務内容	人員数
管理者	従業者及び業務の実施状況の把握その他の業務の管理を一元的におこなうとともに、事業所の従業者に対し遵守すべき事項について指揮命令を行います。	常勤 1名
生活相談員 (介護支援専門員1名) (介護福祉士3名)	利用の申し込みに関わる調整、サービス担当者会議への出席、他の従業者に対する相談助言および技術指導を行い、また他の従業者と協力して計画の作成を行います。	常勤 1名 非常勤 5名
介護職員 (介護福祉士3名) (初任者研修1名) (入門的研修1名) (健康運動指導士2名)	地域密着型通所介護計画に基づき、必要な日常生活上の生活リハビリ、世話、及び移動・移乗の介助を行います。また利用者の機能訓練の見守り業務を行います。	常勤 1名 非常勤 4名
機能訓練指導員 (柔道整復師2名) (鍼灸師1名) (作業療法士1名) (准看護師1名)	日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止するための訓練指導、助言、自主トレの提案、日常生活動作の提案を行います。	非常勤 3名

(3) 事業所の特徴

⇒半日型の機能訓練に特化したデイサービスです。要介護状態であっても、適切に対処すれば、要支援状態や軽度な状態に戻せる状態の利用者の介護予防に尽力する事業所を目指しています。また医療制度では地域市民の方に入院が必要となる病気の発症があった際に、治療が終了となったのちは長くりハビリテーションを受けることができず、早期退院せざるを得ない状況となっています。入院中に介護認定を受けられ、要介護認定になったような方でも適切に機能訓練を行い、介護状態の悪化を防止すれば、要介護状態の悪化を防ぐことはもちろん、少しでも安心して日常生活が過ごせる状態まで介護度を引き下げることができると考えています。

2. 利用状況についてお話しました。以下、会議資料抜粋。

(1) 要介護度別利用者数(54 名)

事業対象者	要支援1	要支援2		
6名	17名	22名		
要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
7名	2名	0名	0名	0名

※現在、順番待ちの利用者が3名(いずれも要介護1の方)

(2) 令和6年4月～令和6年9月の営業日数及び月別利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
午前	営業日数(日)	21	21	20	21	18	19
	延べ利用者数(人)	186	182	174	180	145	171
	1日平均利用者数	8.86	8.67	8.7	8.57	8.06	9.00
午後	営業日数(日)	8	9	8	8	8	8
	延べ利用者数(人)	43	60	50	57	51	65
	1日平均利用者数	5.38	6.67	6.25	8.55	8.72	8.13

3. 活動状況の報告についてお話しました。以下、会議資料抜粋。

(1) サービス内容

① 健康チェック

バイタル(血圧、脈拍、体温、動脈血酸素飽和度、疼痛の有無など)を測定します。また場合によっては呼吸数なども測定し、健康状態を把握していきます。また服薬状況や血液検査データを確認し、既往歴や現病歴を把握し、サービス提供中の急変などのリスクマネジメントを行っています。

② 定期的に体力測定や栄養・機能評価

要支援者は1か月に1回、要介護者は3か月に1回定期的に体力測定を行っています。体力測定の項目は握力、片脚立位、CS-30テスト、TUGテスト、5m歩行速度(通常・速歩)、体重測定を行っています。

また場合によっては低栄養の疑いがある方は、簡易栄養評価を行い、食事摂取状況を確認したり、血液検査データから総蛋白、アルブミンの数値などを確認したりして、必要な支援や援助、助言、CMへの連絡をしております。

③ 個別機能訓練

定期的な体力測定や動作分析から、日常生活動作(以下ADL)や手段的日常生活動作(以下IADL)の課題となる身体機能に対し、個別機能訓練を提供しています。筋力の強化はもちろんですが、バランス機能や協調性の訓練。また病気や後遺症からくる動作のエラー(間違った動き)の修正や運動学習を行います。

疾患・病気の症状の特徴から予後の予測を行い、早期から予防を図っていきます。

④ 生活リハビリ

定期的にADLやIADLの評価を行い、現状の生活状況を確認しています。それをもとに必要な日常生活動作の練習をプログラムに取り入れています。例えば、椅子の立ち上がり動作練習や床からの立ち上がりの練習、跨ぎ動作の練習や方向転換の練習など。

⑤ 健康体操

嚙下体操や左右の手を使ったマルチタスク運動などを行ったりしています。また、準備運動として肩甲骨や骨盤を動かすような体操を取り入れ、機能訓練

を行う前に動きやすい状態にしてから体を動かしていきます。

またさまざまな運動にマルチタスクや脳を使うような要素を取り入れて脳と体を同時に使うような体操を行っています。

⑥ レクリエーション

レクリエーションとして脳機能を活性化し、身体も動かすような種目を取り入れています。

1～10番まで数字が書かれた番号カードを1m四方の枠に置き、順番に足で踏んで少しでも早く10番のカードを踏むようなレクリエーションや風船バレー、ボッチャなどを行っています。

脳機能の低下は転倒リスクを高めます。例えば認知症の方は転倒リスクが1.74倍になると言われています。

※先日、ハーモニカをボランティアで吹いている利用者の方が皆さんの前でご披露し、一緒に歌を歌っている様子

⑦ 送迎

利用者の送迎を2台の車両で行っています。要介護者に関してはドア to ドアを基本にしていますが、要支援者や事業対象者は、自立支援の観点から利用者の身体状況に応じて介助量を減らし、近くでの見守り⇒遠くからの見守り⇒見守りなし⇒自分で帰宅 と自立(自律)へ向けてスタッフの関わりを減らすようにすることもあります。

自宅での家族の方との挨拶や送迎車での利用者との会話も貴重な情報交換の場であり、体調や心身の状況、「昨日は〇〇があったの」とか「昨日は〇〇に行った」などの話からわかる生活状況もあるため、大切な時間と捉えています。

(2) 苦情対応

令和6年度上半期の苦情 全3件

苦情内容①	「もっとマシンを使ったり、どんどん運動をしてもらえるかと思ったけど、そうではなかった。」と計画支援担当者を通してご意見を頂きました。
対応	このご利用者は2号被保険者の50歳の男性の方で脳卒中を発症した利用者でした。特定の利用者によりのみサービス量や質を変えることはできないため、5種目の自主トレーニングを提案し、ご自身でやって頂くよう提案しました。
再発防止策	見学にも来てもらい、契約時にもしっかりと説明をしてからの利用となったにも関わらずにご理解を頂けなかったようです。高次脳機能障害により理解力、判断力の低下があるようにも思えるため、アセスメント不足もあったかもしれませんが、7月後半から無断欠席をされるようになり、8月に復職されるということを知り、現在は利用されていません。

苦情内容②	新しく入職した送迎職員さんの運転で来所された86歳男性の利用者より「あの人の送迎だと車に酔ってしまう。」とご指摘がありました。
対応	送りの送迎は車輛と送迎担当職員を変更しました。また翌週以降も同じ対応を取り、現在も変わりなく利用されています。
再発防止策	送迎職員を採用する時に運転技術も含めて内定すること。そして、送迎業務を依頼する際に、運転技術の基準を決め「みさわめ」をする必要があると認識しました。
苦情内容③	「たった3人の送迎でこんなに時間がかかったり、曲がる時に縁石に乗り上げたりするので不安です。あの人が送迎するなら金曜日は通所するのを止めようかしら。」と83歳女性からの苦情です。
対応	送りの送迎から車輛、担当者を変更し、翌以降は送迎のまわり方を変更し、苦情申し立て人の乗車時間が短くなるよう変更を行った。(苦情申し立て人からの提案)
再発防止策	この送迎職員は試用期間中のため、今後、雇用継続するか検討中です。

(3) ヒヤリハット・転倒事故

令和6年度上半期のヒヤリハット 全2件

令和6年度上半期の転倒(転落) 全1件



転落事故①	サービス終了後、入り口付近の縁台に座って履物を履き替えている最中に縁台が持ち上がり転落。ゆっくりずり落ちたため、大きな衝撃などもなく怪我に至らなかった。 事故に至った原因は縁台に端に座り過ぎたことと、縁台が固定されていなかったことだと考え、縁台を黒いL字金具で壁に固定しました。
-------	--

	
ヒヤリハット①	92歳女性、糖尿病をお持ちの利用者の歩行訓練中に利用者がふらつき近くで見守っていた介護職員が支え、転倒に至らなかったケース。しっかり近くで見守る大切さを再認識。
ヒヤリハット②	手すり近くで跨ぎ動作訓練を行っていたアルツハイマー型認知症の78歳男性がふらつき、近くで見守っていた介護職が腕をつかんで支えたため、転倒に至らなかったケース。見守り介助がいかに大事かを再認識。 またヒヤリハット①、②は同月同日(同曜日)に発生しており、活動量が低下した休み明けの利用で、かつ気温が下がり、からだの動きが少し鈍ってくる時期に発生。高齢だからこそ、日々の活動量を担保しておくことが転倒予防に繋がると考えられるケースでした。

(4) 非常災害時の運営について

令和6年8月30日(金)の利用について

動きが遅い台風10号の影響で、九州から関東は広く雨が強まった。台風から離れた関東でも大雨となり、東京都八王子や神奈川県小田原で300ミリ以上。



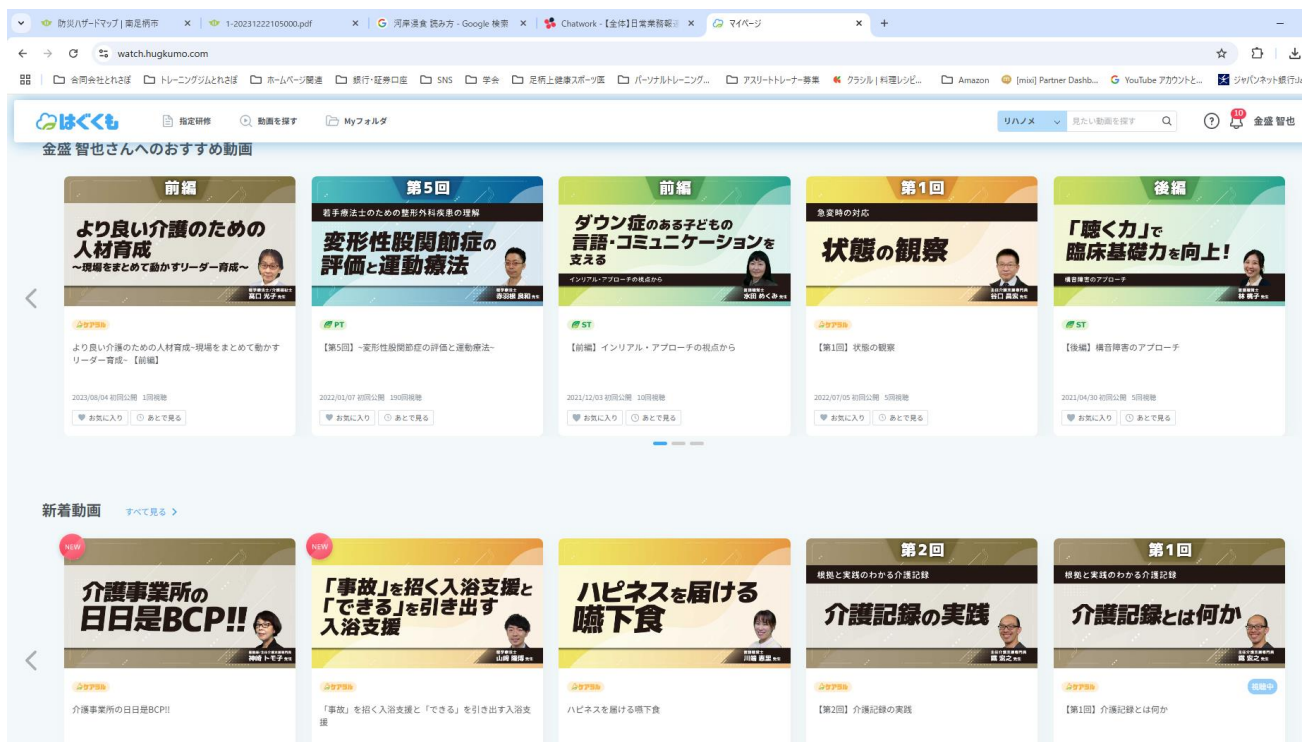
- ① 事業所の場所のハザードマップを確認
- ② 当日、利用する利用者のお住まいのハザードマップを確認
- ③ 1人だけ河岸浸食区域に該当する利用者を確認
- ④ マチコミにて常に市からの防災情報を確認する

対応として良かったのか??

4. 研修その他従事者の資質向上のための取り組みの状況

(1) 年間スケジュールによる月に一度の社内研修

- はぐくもという動画視聴サービスによる研修制度を実施
- スマホやPC からいつでも自由に視聴が可能
- 会社が指定していない興味があるテーマの動画が見放題
- 管理アカウントでは誰がどの動画を視聴したか視聴履歴が確認できる。



視聴履歴

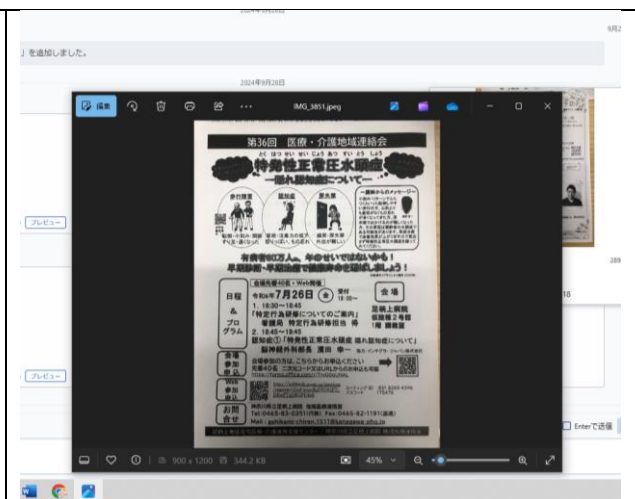
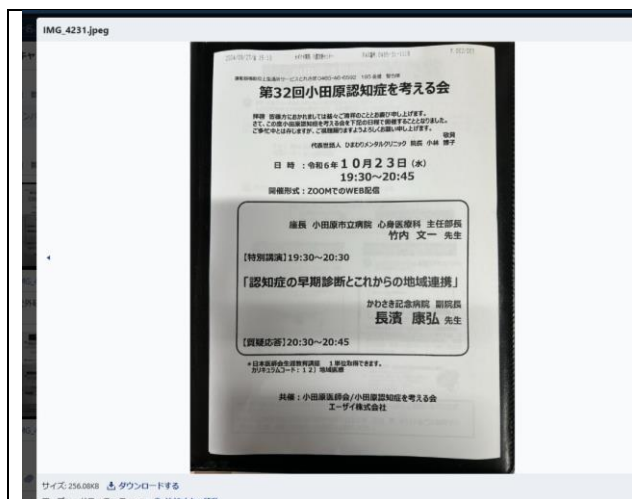
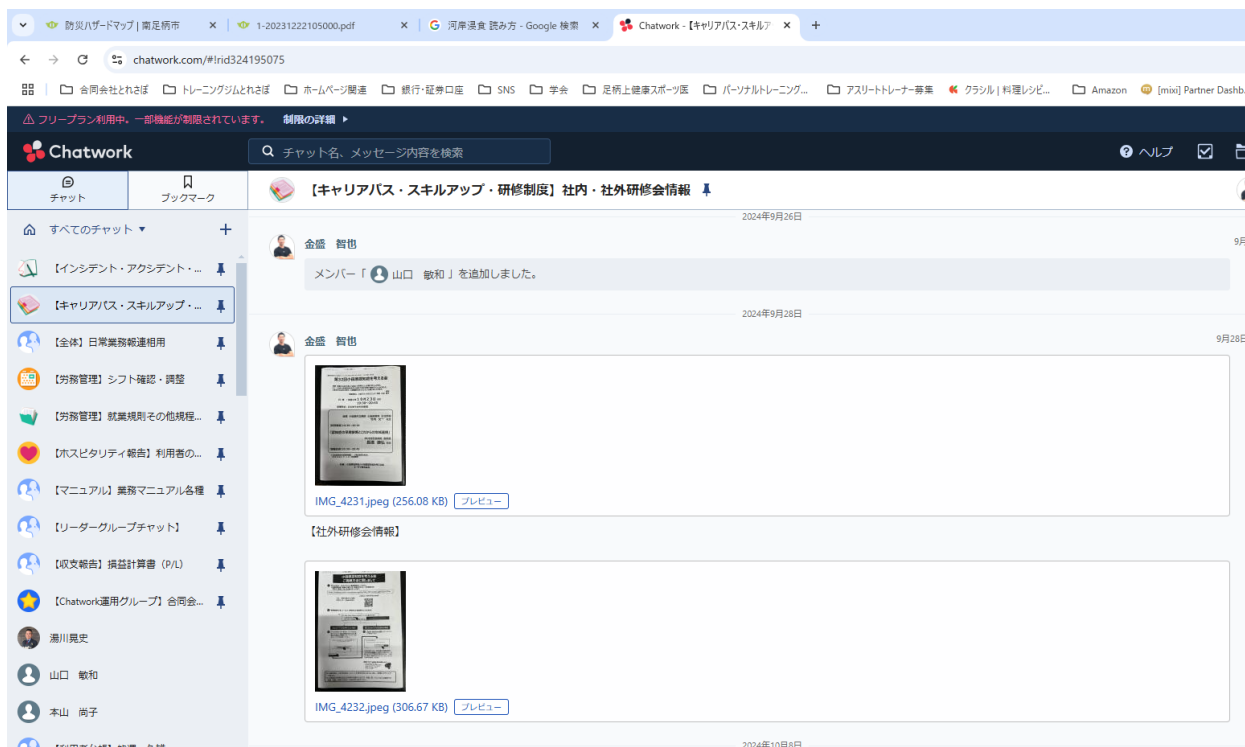
<< < 10件中 1-10件 > >>

タイトル題名	パート題名	視聴時間	最終受講日時
介護予防と要介護度進行予防	Part(4)ICTを活用した介護予防	00:15:43	10/21 17:45
介護予防と要介護度進行予防	Part(3)フレイルとフレイル予防/フレイル予防体操	00:23:53	10/21 17:29
介護予防と要介護度進行予防	Part(2)自立支援と重度化防止	00:20:13	10/21 17:00
介護予防と要介護度進行予防	Part(1)介護の予防の基本	00:18:09	10/21 16:40
介護上でのトラブル	Part(4)ハラスメント	00:22:25	10/19 20:56
介護上でのトラブル	Part(2)金銭トラブル	00:00:19	10/19 20:46
介護上でのトラブル	Part(1)暴行	00:15:57	10/19 20:38
【第3回】外傷・急病	Part(1)	00:28:12	10/10 21:02
医療知識 【第10回】フレイル・サルコペニアとは？～加齢とともに気になるフレイルの理解を深める～	Part(2)その2	00:30:59	10/04 21:26
医療知識 【第10回】フレイル・サルコペニアとは？～加齢とともに気になるフレイルの理解を深める～	Part(1)その1	00:38:53	10/04 21:21

<< < 10件中 1-10件 > >>

(2) 外部研修情報の発信

チャットワークというアプリを利用し、情報共有を行っている。



5. 認知症ケアの事例

2012年時点で65歳以上の高齢者の認知症患者数は約462万人、有病率は約15%でした。2025年には約730万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人が認知症を発症すると推計されています

当事業所でも要介護の利用者9名中4名が認知症の診断が出ている方がご利用をされております。そんな中、周辺症状と言われる帰宅願望がある方が来られています。失語症もあり単語が出てきづらいため、会話が成り立ちにくく、他の利用者とコミュニケーションを図ろうとしても会話のキャッチボールが難しいことが見受けられます。

そんな認知症のご利用者が、帰宅願望が出てしまう要因はデイサービスの環境にあります。例えば、「気が合わない利用者やスタッフがいたり、何となく本人が居心地の悪い環境になっているような時に帰宅願望が出ていると考えています。」

また、役割を持ってもらったり、お手伝いをお願いしたりすると気持ちよくしてくれ

て、笑顔が見られることもあります。

周辺症状は私たちスタッフの関わり次第で頻度を減らせるものと考えています。またそのように介護職員は教育をされております。

今後増え続ける認知症高齢者でも運動機能の維持は必要不可欠になってくると思われます。また、運動は認知症の方の脳機能の賦活にもとても有効であることもわかってきています。

失語症があって、指示が通りにくかったり、模倣ができなくなっても、最後まで工夫次第で機能訓練のサービスが提供できるように私たちは研鑽を続けていきたいと思っています。

6. 意見交換(評価・助言・要望等)

その他

助言1

(事業所管理者)

非常災害時の連絡も含め、急遽、自然災害電話に出て頂けないケースが増えています。何か解決策はありますか？

(利用者家族)

電話番号を書いたカードを電話の近くに貼って頂くようにお渡ししてみるといかがでしょうか？

(事業所管理者)

それはすぐに取り入れられますので、取り入れていきたいと思います。

助言2

(南足柄・北足柄・福沢地区地域地域包括支援センター)

自然災害時の備蓄品などの状況はいかがでしょうか？

(事業所管理者)

少しずつ備蓄品をそろえているところですが、まだ十分な量や種類は確保できていません。今後も少しずつ増やしていければと思います。

助言3

(利用者家族1)

自然災害などの時に、もし送迎などができなかった場合など、私たちは迎えに来てほしいと思っています。なので、そういった時のマニュアルや取り決めに教えてくだされば対応したいと思います。

(事業所管理者)

業務継続計画の策定はしていますが、そういったケースの詳細は取り決めがないため、今後、詳細を詰めていければと思います。

(利用者家族2)

利用者個々の緊急時などの連絡先もあると良いと思います。

助言4

(利用者家族1)

自主トレなど家でやれる運動などをもっと提案してほしい。

(事業所管理者)

要支援の方などは支援計画書に自主トレの提案などが盛り込まれていることが多いので、提案することが多いですが、要介護者はそういったことは少なかったなので、要介護利用者にも提案が増やしていければと思います。

助言5

(南足柄・北足柄・福沢地区地域地域包括支援センター)

とれさぽさんはすごく細かく評価をしてくれて報告をしてくれます。その評価を利用者やご家族にももっと知ってもらえると良いと思います。もっと体力測定の結果を有効利用していくと良いと思っています。

(事業所管理者)

確かに、利用者や家族へフィードバックできればと思います。

以上